

# ヴィオレッタの21

メス 2021年4月13日生 | 栗毛 | 美浦・新開幸一厩舎 | 奥山ファーム生産



一口価格：**24,200円** ※2023年保険料 775円 募集口数：500口【競走馬出資金総額 1,210万円】



## POINT

小柄な母の仔らしくコンパクトながらも、バランスの良いシルエット、ボリュームのある筋肉が覆う馬体は、とても遅生まれの牝馬とは思えません。まだ腰高で成長の余地が多分にあり、キ甲が抜け馬体が完成された頃には、より一層パワフルな馬体に成長していることでしょう。半兄ウメスビはスピードを活かして2歳OPを快勝しましたが、本馬も2歳時から短距離～マイルを主戦場に活躍してくれるのではないのでしょうか。もしかすると2歳女王を決める舞台にこの仔の姿があるかもしれません。また、父の様に世界を股にかける活躍を期待しています。

## 治郎丸敬之の馬体診断

種牡馬となってからは、馬体にも賞禄が出てきた父サンダースノーですが、現役時代は馬体をそれほど大きく見せることなく、全体的にスラリとした姿で走っていた印象です。だからこそ、芝・ダートを問わず、2歳から5歳まで、国際級の大舞台で活躍し続けることができたのだと思います。付くべきところには筋肉が付きながら、実に無駄のないシンプルな構造の馬体でした。産駒にもその良さは伝わっているようです。とはいえ、ヴィオレッタの21に関しては、胸部がやや詰まり、マイルから短距離戦を中心に走ってきそうな馬体を誇っています。母系に流れるサクラバクシンオーと同血の曾祖母トラヴィアータの影響でしょうか。パッと見て、非常に見栄えがするのは、母系の特徴が上手く引き出されているからです。筋肉量は十分にありますので、あとは馬体全体のサイズが課題ですね。ダート戦はもちろんのこと、芝のレースで走る上でも、パワー負けすることなく持ち味のスピードを生かすには、曾祖母同様に460kg以上の馬体重まで、使われながらも成長してくれることを望みます。